

継続事業評価シート

評価実施日 令和3年3月31日

令和2年度(4年目)

Table with 10 columns: 事業コード, 43, 事業名, 自家共済中期運営計画策定事業, 戦略コード, 5, 戦略名, 環境変化に強い商工会, 担当部名, 企業振興部, 担当課名, 経営支援課, 担当課長名, 佐々木隆太, 施策コード, 22, 施策名, 自家共済の中期運営計画の作成

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

自家共済である商工貯蓄共済と会員福祉共済について、会員数の減少に伴う契約口数の減少に歯止めがかからないことから、今後の共済事業のあり方についての検討が求められている。

2. 事業のねらい

今後の商工貯蓄共済の推進計画や、会員福祉共済の全国連版への移行など、今後の具体的な取組につながる中期的な方針を決定する。

3. これまでの評価結果

Table with 8 columns: 過年度, H29, -, H30, B, R1, B, R2

中期運営計画策定に向け、委員会を設置することとしていたが、県連合会内部での検討が必要との判断から、担当課内でこれまでの推移を分析し、現状分析と今後のシミュレーションを行うためのデータ収集を行う。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

共済推進対策会議を継続的に開催し、これまでの推移と今後のシミュレーションをもとに分析を進め、将来のビジョンと共済業務の改善に係る中期運営計画策定に向けた準備を行う。

【取組評価】

Table with 7 columns: 取組コード, 取組, 実績, 必要性, 有効性, 効率性, 総合評価. Rows include 100 and 101.

評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

Table with 17 columns for performance metrics: 取組コード, 指標名, 年度, H29, H30, R1, R2, R3, 実績, 達成率, 達成度.

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 【取組評価】の必要性が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) a

〈評価の理由〉

商工貯蓄共済と会員福祉共済について、会員数の減少に伴う契約口数の減少に歯止めがかからないという課題に対して、将来予測に基づく中期運営計画の策定は、事業の必要性は高い。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 【取組評価】の有効性が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) c

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

今後の具体的な取組につながる中期的な方針を決定のため、早急に具体化すべきである。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 【取組評価】の効率性が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) a

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

県連合会内部の有識者と担当課で分析及び検討を進めているため、費用的コストの縮減につながっている。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 B

共済事業の方向性やあり方を検討した共済推進対策会議の検討結果に、現状分析や将来予測シミュレーションを加え、基礎資料を整備した。

3. 課題

実効性のある中期運営計画を策定するためには、さらなる分析やシミュレーションが必要であることから、策定委員会設置のタイミングを見極めていく必要がある。

4. 今後の対応方針(改善点)

10年先を見据えた中長期的な視点から、今後の運営方針を様々なシミュレーションを行いながら共済推進対策会議や担当課内にて検討し、財政検討会等において2期プランと連動した中期運営計画づくりを進めていく。